



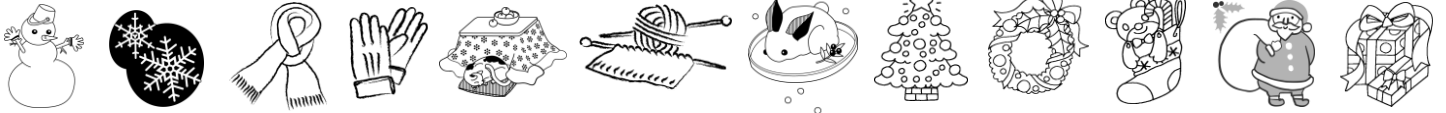
青森市子育て

サポートセンター

通信

H28. 12. 5 発行 Vol.11

青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供(青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や、発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営)、情報収集と発信、また子育て相談の対応等を行っています。



きらきら塾

9/8

子育てに大切なもの ～子どものことを悩むのは 親の役割?～

青森県臨床心理士会

浅田 英輔さん



子育て中の親にとって、子どもについての悩みは尽きないものです。今回は、臨床心理士の

浅田英輔さんをお招きして、子どものことを悩むのは親の役割なのか?また、何が問題で、どのように関わればよいのか?など、子育てに大切なこととお話ししていただきました。

「ふつろ」を知ろう

～アセスメント～

みなさんは「アセスメント」という言葉を聞いたことがありますか?「アセスメント」とは心理学の用語で「査定」「見立て」を指します。心理検査や知能検査もこれの一部だそうです。

子育てに必要なアセスメントは「ふつろ」を知ること。「ふつろ」が良い悪いではなく、統計学上平均値の「ふつろ」からどのくらい的位置にいるのかを知ることが大事なのです。そして、どこからどこまでが「ふつろ」で、子どもが「ふつろ」から何がどれだけ離れているかを知ることが、どんな手助けが必要なのかを調べることで、



それって誰の悩みなの? ～子どもアセスメント～

子どものことで悩みを抱えた時、まずは「誰がやりたいこと?やらせたいこと?」「誰の気持ち?」「誰にとって必要なこと?」なのかを親自身が自覚する。「子ども」と「親」をきっちり分けることが大切で、誰がどう思うのかを明確にすることが大事だそうです。

気持ちを受け入れ、行動を評価 ～Youメッセージ～

家庭でのアセスメントは「分けること」。《気持ちと行動》《あなたとわたし》《したいこと・しなければならぬこと》をきちんと分ける。そして、子どもがどう思っているのかを聞くことが必要です。さらに大事なものは、子どもの気持ちを受け入れること。その手段として効果的なのが「Youメッセージ」です。「あなたは○○○と思っただのね」と、子どもの気持ちを受け入れ、行動はちゃんと見てあげて評価する。これは、親子の信頼関係を



自分のことは自分で決めて! GO あさ

★参加者の感想を紹介します★

- 子どもの気持ちを言葉にしてみる、行動を評価することが印象に残りました。
- 「アセスメントは分けること」まずは落ち着いて話を聞いてあげること。がんばりたいです。
- 良い行動は、もっと多くほめてあげたいと思いました。ダメなところばかり見えていた自分を直していこうと思いました。

(※アンケートから抜粋)



築くために大切なことだと教えていただきました。

子育てには正解があるわけではないので、悩みや迷いがあっても当然です。今回の講座で学んだ「アセスメント」分けることや「Youメッセージ」を普段から意識することで、子どもへの向き合い方が変わり、また、悩みを抱える親自身も楽になり、前向きになれるのではないかと思います。

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動も
されている鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に
寄り添ってくださいます。

Q 最近、子どもが自ら命を落とすという悲しい
ニュースを耳にして、親としてどの
ように関わればいいのか？不安になって
きました。これから、子どもにとって
親は何ができるでしょうか？



(小学5年生 女子の母)

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動も
されている鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に
寄り添ってくださいます。

「子どもは子どもとして完成しているのだから、大人の模型ではない。」(猫の航海日記)という言葉を紹介しながら、子ども時代に、「時間を忘れ、ひたすらに遊ぶまくる」ことの大切について、語られました。



※沼田徹さんは、青森市の子ども権利相談センターで『子どもの権利擁護委員』もされています。

沼田先生はそれを踏まえて、ルソーの「子どもは、獣(けもの)であっても、大人であってもならず、子どもでなければならぬ。」(エミール)という言葉や寺山修司の「子どもは子どもとして完成しているのだから、大人の模型ではない。」(猫の航海日記)という言葉を紹介しながら、子ども時代に、「時間を忘れ、ひたすらに遊ぶまくる」ことの大切について、語られました。

A 先日、弁護士沼田徹先生(※)の講演を聞く機会がありました。「子どもの権利を擁護すること」についてのお話だったのですが、レジュメに沿ってのお話をする前に、「皆さんがまだ子どもだった頃に、目いっぱい子どもをやっていたエピソード、それも楽しいエピソードを思い出して、グループで話し合ってください！」と呼びかけました。どのグループもワイワイガヤガヤと話し始め、会場が一気に和やかに変わりました。

沼田先生はそれを踏まえて、ルソーの「子どもは、獣(けもの)であっても、大人であってもならず、子どもでなければならぬ。」(エミール)という言葉や寺山修司の「子どもは子どもとして完成しているのだから、大人の模型ではない。」(猫の航海日記)という言葉を紹介しながら、子ども時代に、「時間を忘れ、ひたすらに遊ぶまくる」ことの大切について、語られました。

私は、思わずうなづきました。施設での生活は、子ども達の行動を管理するという側面が必要になってきますが、それが強くなりすぎると、「時間を忘れて、夢中になってひたすら遊びまくる」という体験をしてもらうことは難しくなります。これは何かしなきゃいけないと思いました。

それと同時に、このお母さんからの質問を思い出しました。私は、「子どもを死なせないためには・・・」と考えていたのですが、沼田先生のお話を聞いて、死なせないために何かをするのではなく、「子どもが何かに夢中になることを保障すること」が、結果的に死ぬことを回避することになるのではないかと思えました。どうぞ、お子さんが夢中になれるもの、夢中になれる時間を、大切にあげてください。

うとう塾 初めの一步を踏み出そう!

うとう塾は、発達障がいに関する様々な情報の提供やサポートへの繋がりづくり、そして仲間づくりの場です。ひとりで悩んでいる方が最初の一步を踏み出す機会となることを目指しています。

『わたしの子育て体験記
～親だってがんばっているよ～』
青森市自閉症児(者)を持つ親の会
ペアレントメンター:佐藤麗子さん
青森市家庭教育サポーター連絡会
サポーター:鎌田貴子さん



今年度最後のうとう塾は、体験談を中心にお二人に話していただきました。

- ・子どもの様子にいつ気がついたのか。
- ・そのときどうしたのか。
- ・年齢ごとの変化、その対応の仕方。
- ・幼稚園、学校選び、友人や先生との付き合い方。
- ・辛かったこと、反省点。
- ・やってみて良かったこと、皆さんに推奨したいこと。

全てをお伝えしたいのですが、心に残った一部を紹介いたします。

診断結果で気持ちに整理が付き、真剣に向き合うきっかけになった。

- ・子どもの様子で、転園も考慮。変化を恐れず、子どもを守ろう。
- ・同じ悩みを持っている仲間を見つけ、情報や気持ちを共有することが大切。
- ・お母さん自身がストレス解消法を持つ。自分も大切にしよう。
- ・親だろうが大人だろうが泣いてもいい。思い切り泣いた後は、笑顔で子どもを抱きしめよう。

☆参加者の皆さまからのご感想☆

- ・同じ境遇の方の体験談で、心が軽くなりました。
- ・子を守るのは親!という言葉が印象的でした。
- ・子どもにたくさん経験をさせて、本人の可能性を見つけないかと思えました。
- ・母親自身が元気であることが大切だと気がつきました。

茶話会のあとに、うとう塾全5回を皆勤された受講者の方の表彰を行いました。



来年度も皆さまとともに、知識と気持ちを共有できるような講座を目指し、スタッフ一同がんばります。

青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい!」という熱い思いで、活動に取り組んでいます

TEL・FAX 017-774-6537 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F
Eメール aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp ブログ <http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>

【開設日時】 毎週火曜日 10:00~13:00